

公立はこだて未来大学 2016 年度シラバス

科学技術コミュニケーション入門

-地域からサイエンスの魅力と課題を発信する-

配当年次 1～4 年次

開講時期 前期集中

単位数 2 単位

担当教員 田柳恵美子（公立はこだて未来大学）ほか

## 1. 講義内容と目的

### 【テーマ】

日本で初めての本格的な科学フェスティバル「はこだて国際科学祭」が、函館地域で 2009 年にスタートしたのと同時に、この科目は開講されました。科学技術コミュニケーションとは、科学技術の専門家と非専門家（市民）とを結びつけ、お互いの対話や理解、さらには連携や協働を実現するための活動です。科学技術コミュニケーションの関連分野は、理科教育、環境問題、食や健康、サイエンスとアート、コミュニケーションのためのメディア、企業の社会貢献プログラムなど、幅広いです。講義では、いまなぜ科学技術コミュニケーションが必要なのかを深く理解し、はこだて国際科学祭の取り組みなども紹介しながら、様々な科学技術コミュニケーションの活動手法を学びます。地域社会でこうした活動を仕掛けていくための方法を参加者全員で考えます。

### 【講義内容】

講師によるレクチャーと、参加者によるグループワークやディスカッションを組み合わせながら講義を行います。大きな柱は以下の通りです。

- ・科学技術コミュニケーションとは何か、なぜ必要なのか
- ・科学技術コミュニケーションのさまざまな手法と具体的事例  
(マスコミ報道、科学技術 PR、サイエンスカフェ、科学フェスティバル、市民会議など)
- ・地域社会における科学技術コミュニケーションを考える  
地域の風土・文化・生活と、現代の科学技術との関係（あるいは距離）を考える

### 【学習目標】

- ・科学技術コミュニケーションとは何かを理解する

- ・地域社会という文脈の中で科学技術コミュニケーションを考える
- ・科学技術コミュニケーション活動の企画やアイデアを考え提案する
- ・はこだて国際科学祭に参加してみる（課外活動）

## 2. 講義計画

この授業では、講義形式に加え、グループでの対話、協同作業、ふりかえりなど随所にアクティビティを織り交ぜながら、実践と知識の往復による深い理解、深い学びができる授業を目指します。また希望する受講者は、課外活動として8月下旬に函館市内で開催される「はこだて国際科学祭」にスタッフとして参加し、科学技術コミュニケーション活動を実践的に学ぶことができます。大まかな授業の流れは以下を予定しています。

- 第1講 授業ガイダンス／オープニング・ワークショップ
- 第2講 科学技術コミュニケーションの広がりと深まり
- 第3講 科学技術コミュニケーションの手法
- 第4講 科学技術コミュニケーションの実践
- 第5講 地域社会と科学技術コミュニケーション
- 第6講 函館で科学技術コミュニケーションを実践する（1）
- 第7講 函館で科学技術コミュニケーションを実践する（2）
- 第8講 グループワーク実践（1）
- 第9講                 "                 （2）
- 第10講                "                （3）
- 第11講 函館で科学技術コミュニケーションを実践する（3）
- 第12講 グループワーク実践（4）
- 第13講 フィールドワークとワークショップの成果報告（1）
- 第14講                 "                 （2）
- 第15講 まとめ・ふりかえり

## 3. 成績の評価方法

出席、授業中の発言や参加度、事後提出のレポートなどにより総合的に評価します。

## 4. 教科書・参考書

参考書として以下の2冊をあげておきます。

北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット（CoSTEP）編著

『はじめよう！ 科学技術コミュニケーション』ナカニシヤ出版、2007

渡辺保史著

『情報デザイン入門 インターネット時代の表現術』平凡社新書、2001

#### 5. 履修にあたっての注意事項

文系・理工系を問わず、幅広い視野から科学技術の魅力や課題、地域社会や市民と科学技術との対話について考える貴重な機会です。様々な専攻分野からの受講を歓迎します。

#### 6. 備考

本講義はキャンパス・コンソーシアム函館に参加している市内の各大学・短大の単位互換科目となっています。学生以外の一般市民の参加も受け付けます。